



佐伯 欣子 議員
(清流会・かさいを育む会)

統合中学校の進捗と課題



問 基本設計の進捗状況は。

答 校舎、室内運動場、武道館等の建物配置が確定し、各教室の配置もほぼ決定しています。今後は各教室の大きさや内部設計、外構等の設計を検討していきます。令和7年3月をめどに完成させ、引き続き実施設計を行い、令和7年12月中に設計業務全体が完成する予定です。

問 教室等の設計において現場の声をどのように反映されたのか。

答 親子ワークショップや教科担当のワークショップの意見を集約し、さらに各学校からの意見を設計に反映させています。多方面からの意見聴取や集約を丁寧に行うことにより、学校の教育環境や機能面に生きてくると考えます。

問 通学路等の安全対策は。

答 統合中学校は県道三木穴粟線と県道玉野倉谷線が交差する位置にあり、朝夕は車両が多く通行します。学校への進入路、正門の位置については、通学バス等の侵入により渋滞が生じないよう、慎重に検討します。また、学校からJAまでの区間の歩道確保も課題で、学校周辺の歩道や自転車道の経路や整備について、県や加西警察と事前協議しています。通学路については教育委員会と情

報共有を密にし、安全な通学路を確保したいと考えます。

問 小・中学校統合に伴うスクールバスの考え方は

答 市全体でかなり多くのバスが必要となります。運行についても委託または市直営、あるいは両方でいくのか検討しています。運転手確保の問題や公共交通との兼ね合いもあり、可能な限り効率よく運行したいと考えています。休日の部活動も踏まえ、今後検討していきます。

問 スクールバスと地域公共交通との連携について。

答 可能な限り連携やネットワークの形成を試みたいと考えます。統合により校区は広がりますが、今後も地域の方の協力をいただきながら進めます。



大前 裕也 議員
(加西維新の会)

加西市の人口を増やす施策を



問 外国人のために市が行っているフォローアップは。学校での状況はどうか。

答 市内の学校などに在籍する外国籍の児童・生徒へのフォローについては、特に日本語指導が必要な場合は県の教育委員会から子ども多文化共生サポーターの派遣を要請しています。ただし、対象は在留1年以内という条件のため、これだけでは十分な支援を行うことはできません。そのため、加西市では人権推進課を通じてNPO法人加西市国際交流協会から通訳を派遣してもらったり、学

校が作成した書類を母国語に翻訳してもらったりしています。

問 学校以外で外国人の子供と日本人の子供が交流する機会はあるのか。

答 加西市の国際交流事業は、NPO法人加西市国際交流協会が担っていますが、外国人と日本人の子供同士が交流する事業は行っていません。子供たちは、こども園や小学校生活などを通じて交流しているのが現状です。

問 外国人を加西市に呼び込むための施策は。

答 現在、整備を進めている加西市多文化共生センターが外国人の交流等の拠点となるよう検討しています。住環境の整備や就労先の確保、企業の受入体制、地域住民の理解など様々な課題を

解決する必要があります。多文化共生センター内に仮称「加西市外国人雇用環境サポートデスク」を設置し、外国人を雇用する企業の実態把握と啓発活動を実施したいと考えています。また、移住したい方に空き家バンクの情報やU・J・Iターンを提案するなど相談業務を充実させ、子供たちの交流も含め家族帯同の方へ発信できるよう取り組みます。

意見 加西市に住む外国人の家族や友人、知人を呼び込むことができれば、人口増加につながるのではないか。そのための取組を今後とも行っていただきたい。

■その他の質問項目

- ・令和6年執行兵庫県知事選挙を終えて
- ・国における税制改正の議論での地方自治体への影響